

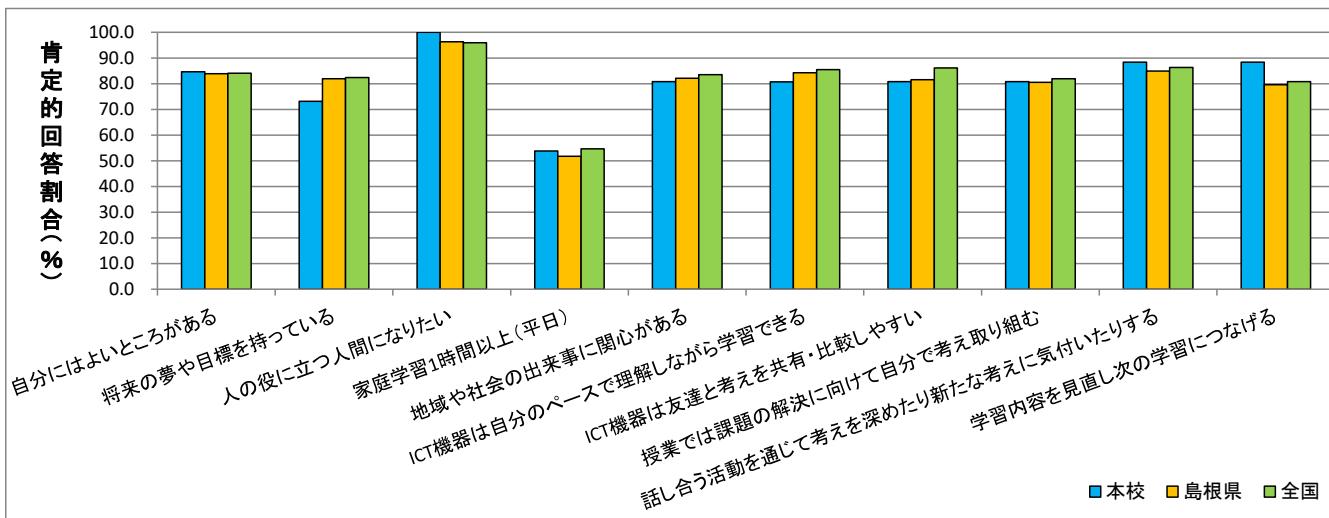
(1)学力調査結果から見られた傾向

成果と課題(O:成果, ●:課題)		対策(・)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ●漢字が書けない学園生が多い。 ●書く活動が十分ではない。 ●題意を十分に捉えていない。 <p>○話すこと聞くことの領域は、比較的よくできていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習った漢字を使って書くことを習慣化する。 ・発達段階に応じて、文字数を指定して短作文を書かせる。(低学年は短い作文や日記、中学生は200字作文、高学年は字数制限を設けるなど) ・学習内容によっては、単元末には書く活動を取り入れる。 ・学習意欲を高めるために、単元のゴールを示すことも必要。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○計算問題や表から読み取る力は身についている。 ●「変化と関係」領域で無回答が目立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読みながらじっくりと問題場面を考える授業を定期的に組み込んでいく。その際に、単に数値に着目するのではなく、大切な数値の関係を図、表、グラフ、式などに表し、捉えられるようにする。 ・既習や根拠をもとに話し合う時間を十分取り、演算決定の仕方を理解できるようにしていく。

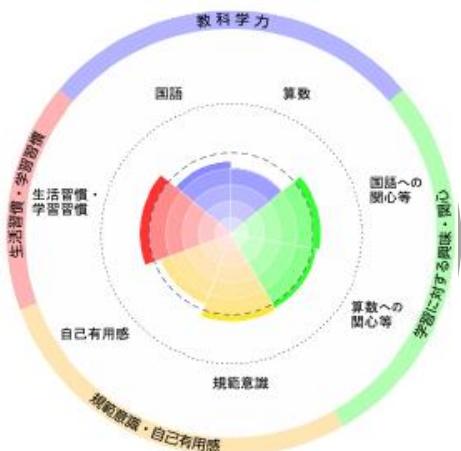
(2)質問紙調査から見られた傾向

成果と課題(O:成果, ●:課題)		対策(・)
質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○全員が人の役に立ちたいという思いを持っている。 ○「地域や社会をよくしたい」「あてはまる」を選択した学園生の割合が高い。 ○授業で話し合って考えを深めたり、復習したりすることについては意識が高い。 ●全国と比べるとICTを用いた学習への意識はやや低い。 ●全国や県と比べ、将来の夢や目標をもっている学園生の割合は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域講師などから、具体的に社会で活躍する人を知る。授業を通して、地域と関わったり、社会の仕組みを学んだりすることを通して将来自分が何をしたいか、何ができるかを考える材料になるようにする。 ・ICTの活用と授業の質を両立させるためには、6年間を通して、ICTの活用計画が必要である。特に、慣れるための期間をどのように設けるかを考えたい。また、使用機器の性能の向上も必要である。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を見据えて学びを積み重ねられるように、教科の特性を理解できるような教員研修を継続していく。 ・本学園の課題である読解力、文章表現力の育成に力を入れたい。今年度始めた学園独自の読書感想文への取組を今後も継続する。 ・後期課程への滑らかな接続が行えるように、学習内容を文章で振り返り、まとめる力が育つよう、特に中期ブロック(5・6年)では、文章を書く機会を増やしたい。
--

【受検者数】

25名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。